

内閣府だより

国際シンポジウム

「沖縄における知的・産業クラスターの形成を目指して」

平成24年秋に開学予定の沖縄科学技術大学院大学は、先端的な学際分野において世界最高水準の教育研究を行うことを目指しており、同大学の開学を契機に、沖縄において、大学・研究機関、民間の研究所、ベンチャー企業等が集積する知的・産業クラスターが形成されることが期待されています。



ジョナサン・ドーファン博士



去る10月6日、沖縄科学技術研究基盤整備機構（OIST）は、「沖縄における知的・産業クラスターの形成を目指して」と題する国際シンポジウムを開催しました。国内外からおよそ180名が参加し、沖縄科学技術大学院大学学長予定者のジョナサン・ドーファン博士による開会の辞に続いて、来賓として出席された末松義規内閣府副大臣、仲井眞弘多沖縄県知事、そしてジョン・V・ルース駐日米国大使がそれぞれ御挨拶されました。



ジョン・V・ルース駐日米国大使

基調講演

シンガポール中小企業育成標準政策庁長官で首相府経済開発担当特別顧問のフィリップ・ヨー氏は、「シンガポールの経験：科学技術による経済発展」と題する基調講演で、同国の経済発展について紹介しました。

ヨー氏は世界中から優秀な科学者を惹きつけるとともに、若手の人材を育成することがいかに重要であるかを強調しました。また、5年ごとに新たなセクターを戦略的に開発する必要性についても言及しました。



フィリップ・ヨー氏

パネルディスカッション

シンポジウムの後半には、「沖縄における知的・産業クラスターの可能性と課題及びOISTの役割」と題して、パネルディスカッションが行われました。

日経BP社医療局主任編集委員の宮田満氏がモデレーターを務めたこのディスカッションでは、まず、平良敏明氏（沖縄県産業振興公社専務理事）から沖縄の現状とクラスター形成の可能性について発表がありました。その後、北野宏明博士（OIST代表研究者）、サス・ソメック博士（ミュージアベンチャー創業者）、塚本芳昭氏（バイオインダストリー協会専務理事）、ジュリー・マイヤー・ライト氏（サンディエゴ経済開発公社CEO）が加わり、沖縄の地理的優位性や、米国サンディエゴ市との類似性、国内外における知的・産業クラスター形成の先行事例などについて意見交換が行われました。

パネリストからは、OISTが世界に誇れる研究成果を出すことができれば、企業も集まり、OISTを中心として沖縄に知的・産業クラスターが形成されるだろうとの声が上がりました。

主催：沖縄科学技術研究基盤整備機構

後援：内閣府、沖縄県、恩納村、琉球大学、

沖縄県産業振興公社、沖縄TLO、

沖縄ゲノム研究推進協議会

沖縄科学技術大学院大学設置促進県民会議

